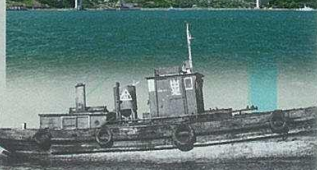


### 1 関門海峡

本州と九州を隔てる幅約700メートル（関門橋付近）の海峡を1日約700隻の船が通ります。出光商会の発展のきっかけとなった海上給油の舞台となりました。



計量器付給油船



当時の第一船溜まり



現在の第一船溜まり

この男は何かを持っている。困難と言われた機械油販売にこだわり続け、今、誰も思いつかなかった船の上での軽油販売をおこなっている。並の商人ではない。門司と下関の石油特約店たちは、関門海峡を「海賊」と呼んで恐れた。馬船を「海賊」と呼んで恐れた。（百田尚樹「海賊とよばれた男」上より）



### 2 第一船溜まり

出光商會も第一溜まりから堀川（運河）を利用して、油を運んでいました。2つの船溜まりを結んでいた堀川も、現在は道路になっています。



鎮西橋跡（手前）と鳥居跡



日銀記念碑

### 3 鎮西橋

第一溜まりのすぐ東、堀川に架かっていた橋で、日本銀行が袂にありました。今は橋柱だけが残っています。

### 4 日本銀行跡（現在は栄町公団住宅）

1964（昭和39）年に小倉に移転するまで、金融の中心でした。1階生涯学習センターの玄関横には、記念碑があります。

### 5 棧橋

出光氏は、連絡船で下関に渡り、漁業会社に安価な燃料油（軽油）の利用を提案して、成功しました。現在は、対岸の下関と約5分で結ばれています。



### 6 旧大阪商船ビル

1917（大正6）年の建築で、八角形の塔が特徴。1階に大陸航路の待合室がありました。出光氏も創業当初から、度々大陸に渡航しています。



大連航路上屋付近のぎわい



### 7 旧大連航路上屋

1929（昭和4）年、旅客の待合室として建てられました。丸みのあるアルデコ調の装飾が特徴です。

# 海賊とよばれた男 青春の舞台



海峡ミュージアム



海峽ミュージアム



### 8 門司港駅

九州の鉄道の起点。0哩標があります。改修中の駅舎は、1911（大正3年）に建てられたもので、それまでは200mほど東（山）寄りがありました。



### 9 旧門司駅跡（九州鉄道記念館）

旧駅の場所には、旧0哩標があります。創業した頃、出光氏は、ここから炭釜の炭釜に向かい、機械油の販売を試みました。

### 10 パナナの叩き売りの碑

日本でパナナの本格輸入が始まったのは、出光商會創業の頃。門司港駅前から山手に延びる棧橋通りでは、船中で熟れたバナナを早く売りさばこうと、バナナの叩き売りが生まれました。



パナナの叩き売りの碑

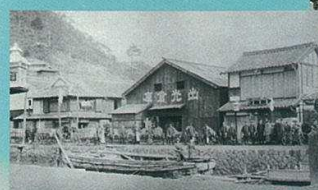
### 11 栄町銀天街（みなと祭の出光氏）

「しゃぎり隊」に参加した出光氏は、一際目立ち、西洋人のようだったといわれます。毎年5月に催される門司みなと祭は、出光氏が商工會議所会頭の際に、創設したものです。

※H28.10月現在、移転検討中のためご覧になれません

### 11 甲宗八幡宮

1926（大正15）年、出光氏が結婚式を挙げました。石段上の鳥居は、出光氏が奉納したもので、「甲宗八幡宮」の文字は直筆です。横には石碑もあります。



### 12 甲宗八幡下倉庫

出光商會も、堀川倉庫、甲宗八幡下倉庫など、堀川沿いに倉庫を建てていました。



### 16 西本町本店（写真左。右は明治屋）

1922（大正11）年、出光商會は、二十三銀行（大分銀行）ビルの2階に再移転し、以来1965（昭和40）年まで、出光興産・門司支店として、入居していました。明治屋と並んでいました。



### 13 門司文化会館（現在は市民会館）

出光氏は、筑前琵琶を演奏するなど、芸能文化の趣味も豊かで、門司文化会館の建設にも尽力しました。

### 14 東本町二丁目本店の初荷

1913（大正2）年、燃料油の海上売買も軌道に乗り、出光商會は、広くてモダンな建物に移転しました。



### 15 出光商會創業の地

1911（明治44）年、出光商會を創業した場所には、説明版が設置され、いつもきれいに清掃されています。



### 18 三宜楼

山手の清滝方面は、料亭文化が花開いた界隈です。中でも三宜楼は、出光氏などの財界人が好んで通ったといわれます。2014（平成26）年をはじめ、一般公開の予定です。

参考：百田尚樹「海賊とよばれた男」上より  
柳田桃太郎「門司における出光佐三翁の思い出」  
出光興産「出光100年史」

背景：東本町二丁目本店の初荷 注）写真16 <http://www.uraken.net/rail/travel-urabe51.html>より転載